東北 VALUE SIGHT

宮城

地域経済の活性化と健全化のためには、男女平等の労働環境実現はもとより、子育て支援を含めた女性の職場環境の充実が重要である。株式会社Lateral（ラテラル）の川村社長は、「子育てと仕事の両立を支援し、働く女性を応援する」ことを信念としており、その取り組みを紹介する。

株式会社Lateral　代表取締役

川村　陽介（かわむら・ようすけ）

1976年札幌市生まれ。
平成21年12月に株式会社Lateralを設立。
仙台、名古屋、沖縄にエステティックサロン10店、リラクゼーションサロン４店、飲食店１店を経営。
平成25年10月１日、株式会社Lateral Kids設立。
仙台市内に認可外保育施設「もりのなかま保育園」を開園。平成26年内に第２号園の開園を予定。

株式会社Lateral（ラテラル）
http://www.jeunesse-salon.com/（代表サロン）
株式会社Lateral Kids（もりのなかま保育園）
http://www.morino-nakama.jp/

働く女性を応援し、地　域の未来を見つめる

1997年に全面改正された男女雇用機会均等法は2007年に再改正され、職場での男女平等の確保に加え、表面上は差別に見えない慣行や習慣が実際には不利益につながる「間接差別」の禁止、妊娠・出産による退職強要や配置転換などの、女性にとって不利益な扱いが禁止された。このようにして、法律上、職場での男女間の格差は無くなったわけだが、実際には労働環境や待遇など、女性が不利となる扱いが依然としてみられ、本当の意味での男女平等の実現には至っていないことを残念に感じている。

地域の元気は、女性が創る

「地域を豊かにするのは、そこに暮らす人であり、そこで働く人に他ならない」と、私は常に感じている。とりわけ女性の力は大きく、街中を歩いてみてもファッションや美容、飲食、カルチャーなど、時代の流行や文化そして消費をけん引するのは圧倒的に女性であると実感できる。そうした女性ならではの感性や能力が、企業の商品開発やサービスに生かされ、地域経済の大きな支えとなっており、「地域の元気は女性が創る」と言っても過言ではない。

当社事業の中心は、女性の美と健康をサポートする、エステティックサロンの経営である。女性向けのサービスを女性スタッフのみで提供するスタイルの店舗展開で、現在は仙台市内をはじめ、名古屋、沖縄に計10店舗を有している。

女性の美容に関する支出割合は大きく、成長を続けているマーケットである。特に仙台市内はエステ激戦区とも言われるほど出店数が多く、競争が激化しているが、言い換えれば、それだけの需要があるいうことで、地域の経済活動を支える重要な産業へと成長を遂げている。

女性が働きやすい環境を整備

当社が展開するエステティックサロンは、女性だけの職場。顧客満足度の高いサービスを提供するためには、従業員自身が仕事や職場環境に満足しているかどうかが極めて重要となる。具体的には、仕事に対するやりがいや自己実現のための目標が持てること。また、雇用面での待遇や教育制度など、スタッフの働く環境が充実しなければ、顧客の満足を得ることはできないと確信している。

当社の理念は、「人を幸せにする」ことである。プロとして、いいものを作ることや、質の高いサービスを提供することだけではなく、提供する商品やサービスを通じ、そこにかかわるすべての人（顧客、従業員とその家族、取引先）を幸せにすることを目的としている。これは、従業員自身が仕事を通じ「幸せ=満足感」を感じることが事業成功の第一であるという考えによるもので、創業以来一貫して、従業員が満足できる職場環境づくりに取り組んできた。

仕事を続ける障害となる、出産・育児

エステティックサロンの多店舗展開を進める中で課題が表面化。従業員の妊娠による退職問題である。従業員はすべて女性、こうした問題がおこることは想定済みであったが、事業拡大が進行する中での経験豊富なスタッフの離脱は大きな痛手となった。それでも、抜けた人材は補充採用で何とか埋めることができる。しかし、退職を選択した従業員はそれで満足なのだろうか。私はその疑問に頭を悩ませた。当然、産休制度を活用する方法はあるものの、それ以上に女性の職場復帰を阻む要因は、保育施設の不足という問題だった。

課題解決を模索する中、従業員から「子育てできる環境なら、職場復帰したい」という要望が寄せられたことがきっかけとなり、企業内保育施設設置の検討をはじめた。検討を進めるうち、仙台市内における待機児童が500人を超えていることを知り、当社に限らず、働く意思がありながら、あるいは企業側が望んでいるにも関わらず、職場復帰を果たすことができない女性が多数いることを目の当たりにした。

認可外保育施設をオープン

従業員の声は、同様の悩みを抱えるすべての女性の声ととらえ、子育てをしながら働く女性を支えることを目的に、保育事業を専門とする関連会社、㈱Lateral Kidsを立ち上げ、平成25年10月１日、仙台市青葉区八幡に認可外保育施設「もりのなかま保育園」を開園。美容業界からは異例の保育関連サービスへの進出となった。

一見すると、美容と保育は全く関連のない分野ととらえられるが、いずれも「人が心豊かな生活を送るために、欠かすことのできない」分野である。母親が安心して子どもを預け、自身は職場に復帰。これまでに培われたスキルを発揮し企業に貢献。また質の高いサービスの提供により顧客に満足を提供。給与は家計を支える財源に…などの循環を促すことにつながる。

宮城県の発表によれば、平成26年４月１日現在の仙台市内の待機児童は570人。昨年よりもさらに37人増加している。市では国の「小規模保育事業」を前倒しで開始し、民間の参入も進められているものの、抜本的な事態改善には至っていないのが現状。こうした環境下、当社としても年内中に仙台市内への２号園の開園を予定。微力ながら地域の保育環境改善につながるよう計画を急いでいる。

女性による、女性を美しくする仕事「エステティックサロン」。働く女性を応援する「保育施設」。スタイルは違っても、スタッフが安心して仕事に取り組むことができ、自身が幸せを感じることが、より良いサービスの提供につながる。ひいてはそれが地域を元気にする力となることを信じ、女性が働く職場環境と、子育てしながら働くことができる保育環境の充実に向け、一層の努力をもって臨みたい。

「もりのなかま保育園」八幡町園
平成25年10月１日開園。０歳～５歳児対象、定員25名。杜の都仙台の保育園として、自然に親しみながら、思いやりのある「生きる力」をはぐくむ保育を目指している。